

これまでの環境審議会における意見等

1.計画全般

計画全般に係る事項

- 「市川らしさ」を前面に出して、市川らしい環境基本計画になると良い。
- 「市川らしい環境施策」を示してほしい。
- SDGsを打ち出すことで「市川らしさ」とする考え方もある。
- SDGsについての啓発や環境教育を実施して、SDGsの考えを市民に理解してもらうようにする必要がある。
- 温暖化の影響について、市民にもっと分かりやすく伝える必要がある。
- 表記されている言葉や単語について、必要に応じて注釈や解説を付ける必要がある。
- 市民の間でも、環境への意識に差があることから、興味を引く内容とする必要がある。
- 取り組み施策については、部局や施策間の繋がりを見せるようにしてはどうか。
- 自然とのふれあいについて、教育委員会では子供達には危ないと呼び掛けている。その一方で、環境部局では自然とのふれあいを推奨している。市として意見をまとめてほしい。
- 施策の中で、公共交通機関の利用促進を掲げる一方で、コミュニティバスの利用料金を上げている現状があるので、市としての方向性を示すことが重要である。
- 指標の実績数値の推移や目標の達成状況といった報告と、市民に対して取り組みを促す啓蒙・啓発は、それぞれ分けて検討したほうが良いと思われる。
- SDGsで関連するゴールをカラフルなロゴで表現するなど、広報紙の記事などで表現方法を工夫し、市の方針を分かりやすく掲げることで独自性が高まるのではないかな。
- 昨今の台風等の被害により、市民は温暖化対策の重要性は感じていると思われることから、市は上手に情報発信をしてほしい。

2.環境基本計画

計画の基本的事項

- 事業者の役割に記載している内容は、市の役割においても同様である。

環境の現状と課題

- 施策の実施状況を評価し、課題を的確に把握することが大切である。

計画の目指すべき方向

- 施策全てをSDGsのゴールにこじつける必要はなく、関連性の高いものに絞るほうが市民も分かりやすいのではないかと。
- SDGsのゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」については、「全体を統合して横串で刺す」ことが必要である。

施策の分野と方向

(1)地球環境

- 太陽光発電システム設備について、今後普及させるためにはどうしたら良いか、具体的に示せると良い。
- 適応策について、令和元年10月の千葉県における台風被害のこともあるため、ゲリラ豪雨等に対する危機管理に関することを追加したほうが良い。

(2)資源循環・廃棄物

- 施策の分野の欄に記載された意見のうち「5R」について、国内でも取り入れている自治体はある。しかしそれぞれの「R」の定義が不明確であったり、エネルギーに関しても3Rの考えはあるため、全てを踏まえて整理した上で、市川市としての取り組みを示すこと。
- 資源化率や最終処分量を改善させることや、資源の循環について製造者の責任を明確化することが重要だと考える。
- マイバッグのデザインコンテストの開催や、協力団体・協力店舗などのうち、優良団体・店を表彰したり、応援することも良いのではないかと。

(3)自然環境

- 「生物多様性」という言葉が一般的でないと思うので、分かりやすい説明が必要である。

(4)生活環境

- 施策の分野「快適な生活環境の整備」に「安心・安全」という視点を加えたほうが良いのではないかな。

(5)協働

- 環境を大きな目で捉え、SDGsについての啓発や環境教育を実施し、それに関連する指標を設定するというのも、市川らしさにつながるのではないかな。
- SDGsの取り組みで、例えば、市川市が特色のある教育をやっているとなれば、一つの目玉になるのではないかな。

環境に配慮した具体的行動

- 「明日からやること」「時間をかけてやること」のように、優先順位をつけて示すと分かりやすくなるのではないかな。
- 行動をいかに習慣として落とし込んでいくかが大切であり、動機づけになるような仕組みを作ってほしい。

計画の推進

- 次期計画の目標値・指標について、令和12年度までを一括りに示すのではなく、短期・中期・長期に分けて目標値を設定するのが良い。
- PDCAサイクルは重要であるため、計画で設定している指標の目標値については、定量的な数値で示すべきである。
- 目標値・指標値に対する評価について、△の範囲が広がってしまうことや、×だと否定的な印象となることから、○△×ではなくABCDEのように変えたほうが良い。
- 色々な指標があるが、各指標の目標値をレーダーチャートに示したらどうか。
- 指標の実績値とその変動要因との因果関係を押さえることが重要である。

3.地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

計画策定の背景等

- 計画の範囲を分かりやすくする必要がある。
- SDGsについては17のゴール全てではなく、必要な範囲を明らかにする必要がある。

計画の基本的事項等

- 環境という面だけではなく、経済・社会も含めて、市の施策や市としての考え方・理念等を示していく必要がある。

温室効果ガスの排出状況

- 今までの増減理由をしっかりと検証し、考えられる具体的な理由やその裏付けを分かりやすく示すことが必要である。

二酸化炭素の削減目標

- 本市の二酸化炭素排出量の半分以上を占める産業部門に関して対策を講じる必要がある。
- 省エネ行動による削減について、運輸部門や産業部門についても取り組みを講じる必要がある。
- 削減量がパーセンテージ表記だけではイメージしづらいので、具体的な削減数字を入れほうが良い。

目標達成に向けた取り組み

- 取り組み主体である市民や市民団体にとって、取り組むべきことをより分かりやすくするため、施策や指標等の優先順位や重点目標を設けた方が良い。
- 施策の推進にあたっては、メリットだけでなくデメリットが発生する分野も出てくることから、市の他事業との整合性も意識して、施策を考慮する必要がある。
- 市民や事業者が何に取り組めば良いのか分かりやすく示す必要がある。
- 市民や事業者に対して、行政で出来る支援を具体的に分かりやすく例示することで、利用しやすくなるのではないかな。
- 市民や企業が、二酸化炭素排出量の削減に取り組みやすいように、費用負担や簡単にできる取り組みを例示してはどうか。
- SDGsに関連する指標を設定する必要がある。

目標達成に向けた取り組み

- 環境フェア等のイベントについては、参加者の環境に対する意識を向上させることが目的であり、また、コロナ禍の中で社会動向も変化していることから、集客数の増加以外で、効果を計る指標の設定を検討する必要がある。
- 今後、進捗を評価していく上で、評価時点の立ち位置や、目標までの距離や進み具合を分かりやすく確認できるようにする必要がある。
- 施策の評価指標の進捗について、計画期間中の達成状況や方向性も示す必要がある。